

2. 河川の整備の基本となるべき事項

2-1. 基本高水並びにその河道及び洪水調節施設への配分に関する事項

基本高水のピーク流量は、近年で最大規模となった平成4年8月8日の降雨による洪水等を踏まえ、基準地点^{くさかばし}日下橋において650m³/sとし、これを河道に配分する。

表 2.1 基本高水のピーク流量等一覧表 単位：m³/s

河川名	基準地点名	基本高水のピーク流量	河道への配分流量
瀬野川	日下橋	650	650

2-2. 主要な地点における計画高水流量に関する事項

瀬野川における計画高水流量は、基準地点日下橋において650m³/sとする。

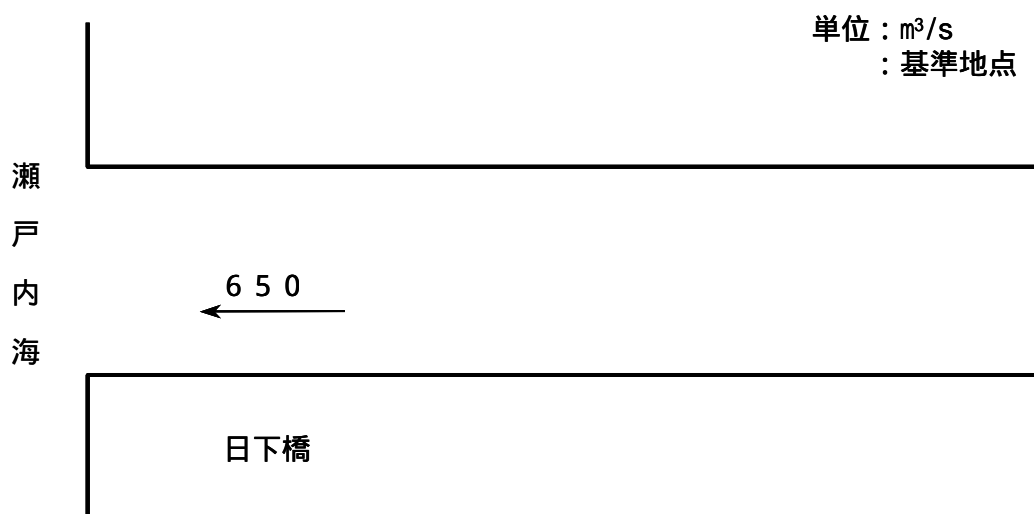


図 2.1 計画高水流量配分図

2-3. 主要な地点における計画高水位及び

計画横断形に係る川幅に関する事項

本水系の主要な地点における計画高水位及び概ねの川幅は次のとおりとする。

表 2.2 主要な地点における計画高水位等一覧表

河川名	地点名	河口からの距離 (km)	計画高水位 (T.P.m)	川幅 (m)
瀬野川	日下橋	河口から 2.58	+5.24	71

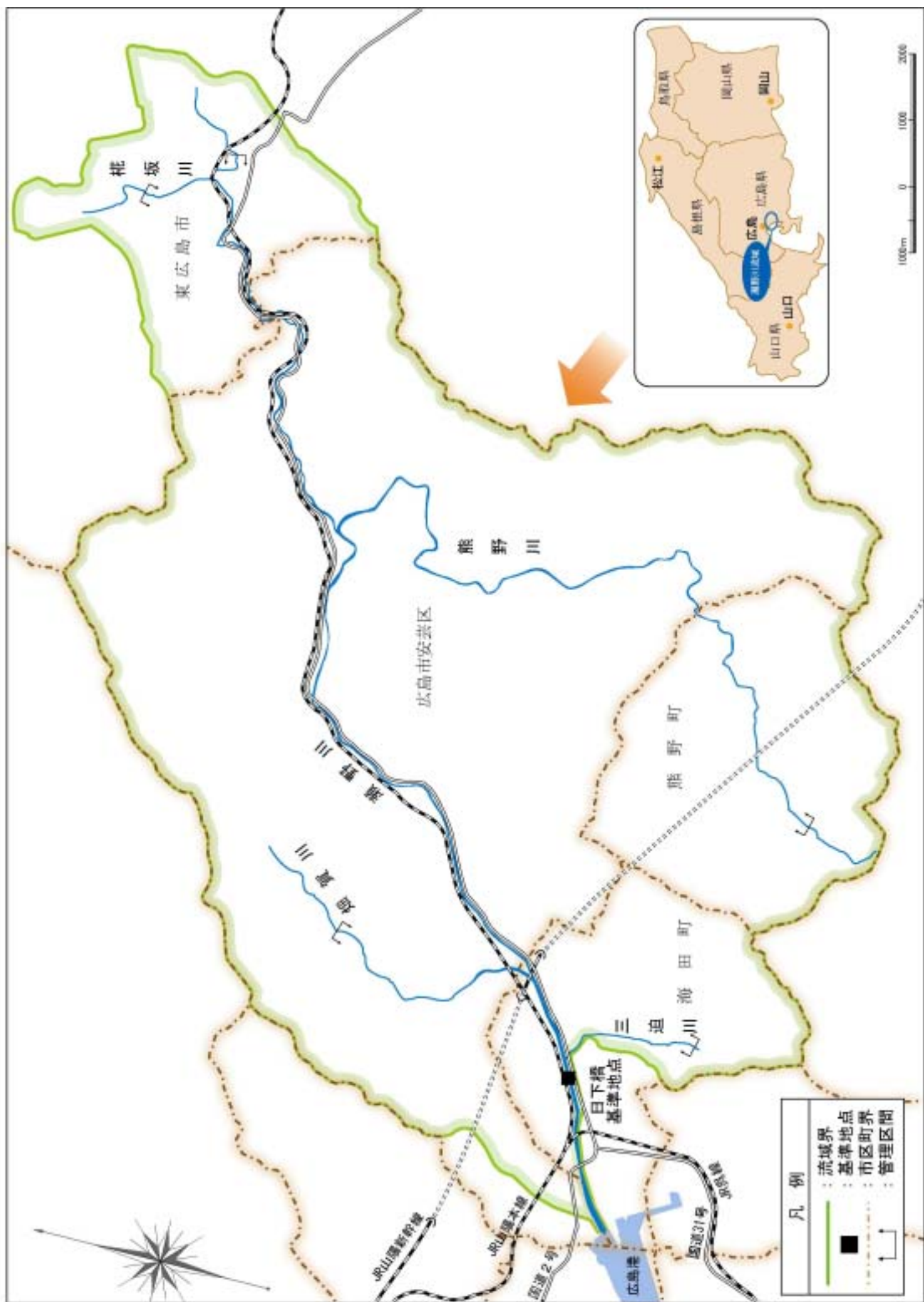
注) T.P. : 東京湾中等潮位

2-4. 主要な地点における流水の正常な機能を

維持するため必要な流量に関する事項

瀬野川水系における既得水利としては、農業用水として許可水利と慣行水利権による取水が行われている他、工業用水として $0.011\text{m}^3/\text{s}$ 、海田町の上水道用水として $0.139\text{m}^3/\text{s}$ の許可水利が設定されている。これに対して、津村地点における平均低水流量（昭和 50 年～平成 11 年の 25 ヶ年平均）は約 $0.91\text{m}^3/\text{s}$ 、平均濁水流量（同 25 ヶ年平均）は約 $0.49\text{m}^3/\text{s}$ である。なお、現状では比較的安定した流況となっており、これまで取水や河川環境に関して大きな問題は発生していない。

流水の正常な機能を維持するために必要な流量は、関係機関との連携により、今後さらに農業用水の利用実態等の把握を行い、流況等の河川の状況の把握、動植物の保護、景観、流水の清潔の保持などを考慮し、今後さらに調査検討を行った上で決定し、その確保に努めるものとする。



策定日及び告示日

策定日	平成 15 年 7 月 8 日
告示日	平成 15 年 8 月 21 日